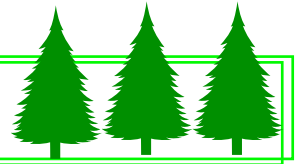


# みつぎ便り



第206号 11月号 令和5年11月1日発行 [http://itbs-ecopo.jp/environsurvey\\_report](http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report)

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



## カヤツリグサ

目立ちませんが「この草です」と教えられると「ああ、これですか」と、多くの方が思い当たる、よく見かける野草の一種です。本州以南の空き地や道端等、色々な所で生育し二十から三十センチ位の地味な薄茶色をしています。茎の先端から数本の枝が出て、夏はそこに穂を付けます。カヤツリグサ科の種類はとて多く、かつ形がよく似ていて「メリケンガヤツリ」かと、思われるものも見次公園のあちらこちらで見うけられ、私達にはどちらとも断定できずにいます。

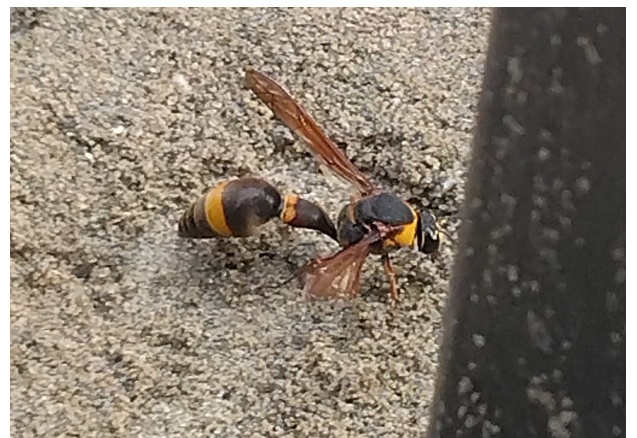


## スズバチ

ハチの仲間は大変多くの種類があります。刺されると大変危険なスズメバチ、人の役に立つ、蜂蜜を収穫するミツバチ、果実や野菜や花の花粉媒介を助ける、マルハナバチなど多くの種類があります。

どちらの種類も、この茎を上下で2本ずつ裂くと四角になり、昔の子供達がこれを蚊帳吊りに見立てて遊んだところからこの名前がついたそうです。しかし、この三角形の茎を二本に裂いて蚊帳吊りの型を作るのは、なかなか難しそうで、とても文章では表現できません。興味のある方は、全国農村教育協会出版の「新・雑草博士入門」を参照の上、挑戦してみてください。(静)

今回は、スズメバチ科のスズバチを紹介します。スズメバチではありません。体の色は黒色で、腹部の中央部と細長い胸部と胸部上部に、橙色の独特の斑紋があります。羽は褐色をしています。体長は三十センチ程でトックリバチよりやや大型です。トックリバチと同様に、泥で固めた鈴または徳利のようなたつぽ状の巣を造ります。食性は蛾や蝶の幼虫を主に食べています。生息分布は、沖縄から北海道の日本全域で、七月〜九月の時期に見られますが、このハチを見次公園の砂場で発見したのは、十月上旬で、もしや温暖化？今年の猛暑の影響ででしょうか？



(圭)